

研究課題：10 年間メンテナンス受診者の歯の喪失状況について

研究者名：吉野浩一

所属：東京歯科大学衛生学講座客員准教授

抄録

目的：本研究の目的は、メンテナンスに 10 年間歯科医院へ通っている患者の歯の喪失状況を受療状況により、「非定期的来院者」および「定期的来院者」に分けて「問題時来院者」と比較検討することである。

方法：本研究は後ろ向きコホート調査である。研究に参加した開業医は、患者の歯の喪失状況について調査した。患者は来院の状況により 3 群に分類した。

結果：50～79 歳の 1,400 名の患者からの喪失歯数は 10 年間で 1886 本であった。一人平均 10 年あたりの喪失歯数は、男性の「問題時来院者」で 2.2 (± 2.6) 歯、「非定期的来院者」で 1.2 (± 1.7) 歯、および「定期的来院者」で 1.5 (± 1.5) 歯であった。この値は「問題時来院者」と比較して統計学的に有意な差であった。従属変数を「2 歯以上の歯の喪失」とした場合、独立変数として次の項目の関連が示された。「非定期的来院者」(OR: 0.54; 95%CI: 0.35 to 0.84), 「定期的来院者」(OR: 0.65; 95%CI: 0.47 to 0.89)、男性(OR: 1.43; 95%CI: 1.11 to 1.83)、高血圧(OR: 1.38; 95%CI: 1.04 to 1.85)、「20～25 の現在歯数」(OR: 2.41; 95%CI: 1.81 to 3.22) および「1～20 の現在歯数」(OR: 3.75; 95%CI: 2.73 to 5.16)。

結論：メンテナンスに歯科医院へ通っている「定期的来院者」の歯の喪失歯数は、「問題時来院者」よりも少なく、歯の喪失するリスクが軽減されることが具体的に示された。本調査結果は、患者に将来の歯の喪失リスクおよび予防効果をより具体的に示せることができ、患者への定期的な受診へのモチベーションに有効に活用できるであろう。